

# 息子の思いやり

## ひととき

長男にとって、小学校最後の運動会がありました。

特に組み体操は圧巻でした。体操服を真っ黒にしたがらがんばる息子の姿に目頭が熱くなり、ビデオを持つ手が震えました。その数日前、息子が話したことが頭から離れなかったからで

す。

息子は、組み体操で人数合わせのために同級生とではなく、5年生と一緒に演技することになったと、さうと言ったのです。

どういふことなのか。息子は気にしていませんでしたが、私は納得できません

でした。最後の運動会でそれはないでしょう。先生に電話しようとする、息子がこう言ったのです。

「先生に電話したら、おれの代わりを誰かがやることになるんだ。ママはいいかもしれないが、おれは嫌

だからね」。はっとしました。すぐに猛烈に後悔しました。自分の息子のことをか考えない馬鹿な親だと。「電話はしないよ」と言ったときの、ほっとした顔は忘れられません。

太陽をいっぱい浴びながら、息子は立派にやり遂げました。普段は控えめな息子ですが、人を思いやる心

を親以上に持っていることを誇りに思いました。

そして自分の浅はかさを恥じました。「これからも暴走してしまうことがあったら、その時はまた一喝してね」と、心の中でつぶやいたのです。

茨城県土浦市

中江 香織

主婦 40歳